



4番手からスタートし前半ステイントで順位を
キープすると完璧なピット作業で先行し2位で
ゴール。しかし、最低重量違反で失格になる

日付：8月24日
天候：晴れ
コース：鈴鹿サーキット
24日：(決勝レース前)
気温：35℃、路面温度：52℃

AUTOBACS SUPER GTの第5戦が鈴鹿サーキットで実施され、8月24日(日)には決勝レースが行なわれた。

富士スピードウェイでの前戦から1週間のインターバルで迎えた「SUZUKA GT 300km RACE」は、真夏の連戦となりドライバーやチームスタッフにとって過酷な戦いとなった。

今シーズンのLMcorsaは、4シーズンにわたって使用してきたGR Supra GTからLC500 GTにマシンをスイッチ。2台ともSUPER GTを主催するGTAのGT300既定によって製作されたマシンのためパワートレインの変更はないが、ホイールベースが延長されたことで特性は変わっている。ニューマシンのLC500 GTで躍動することが期待された今季だが、4戦連続で思い描いた結果は得られず苦戦を強いられてきた。

ただ、23日(土)に行なわれた公式練習と予選では、LC500 GTのパフォーマンスが花開き、予選Q1を河野駿佑選手が3番手で突破すると、予選Q2を担当した吉本大樹選手は大幅にタイムアップを果たし4位を獲得。決勝レースは、好成績が望めるグリッドからのスタートとなった。

決勝レース日となった24日(日)も好天となり、朝早くから30℃を超える酷暑となった。午前中には併催カテゴリーの決勝レースやグリッドウォークなどが行なわれ、観戦するには厳しいコンディションの中だが2万9000人のSUPER GTファンが決勝レースを待ちわびた。



SUPER GT 2025
Rd.05 SUZUKA
GT 300km
FINAL



14時から20分間のウォームアップ走行が実施され、GT500クラスの15台とGT300クラスの28台が決勝レースに向けて最後のチェックを行なった。LC500 GTにはまず河野選手が乗り込み6周すると、吉本選手も3周を走行。このセクションでもGT300クラスの中で3番手のタイムをマークし、前日の好調さを維持していることが証明された。

300kmの決勝レースは三重県警察のパレードラップにより予定の15時30分にスタートした。LC500 GTのステアリングを握った河野選手は、オープニングラップから先行する5号車MC86をテールトゥノーズで追った。4周目にはGT500クラスのマシンがクラッシュした影響で早くもセーフティカーが導入される。9周目にレースが再開されると、前後とのギャップを維持しながらポジションをキープしていく。15周目を過ぎると、義務づけられているドライバー交替のためにピットに戻るマシンが出始める。河野選手はペースを落とすことなく18周目には先行するマシンがピットに入ったために3番手、19周目には2番手までポジションアップ。21周目になるとチームは河野選手にピットインを指示した。4本のタイヤ交換と給油を行なうとともに吉本選手にドライバーチェンジ。





SUPER GT 2025
Rd.05 SUZUKA
GT 300km
FINAL



すでにピット作業を済ませた車両では7号車のFERRARI 296 GT3が暫定のトップに立っていたが、敏速なピット作業によってコースに復帰したLC500 GTはその7号車をオーバーカット。11番手で走り出した吉本選手は、23周目に自己ベストタイムの2分00秒152をマークする。後方から迫ってくる7号車を引き離そうとするが、周回ごとにギャップは縮まっていった。28周目には2台のギャップは0.2秒となりテールトゥノーズの状況となる。吉本選手はGT500のマシンを使うなど巧みなドライビングでポジションを守るが、34周目のスプーンカーブで逆転されてしまう。7号車はペースが速く抜き返すのは難しかったため、このポジションを守るための戦略に切り替える。ただ残りは15周ほどあり、ポジションを守り抜くのも簡単ではない。40周を越えるとピット作業で抜いた5号車が背後に迫ってくる。LC500 GTはコーナリングスピードに優れているが、加速性能がライバルよりも劣っている。ストレートの伸びがいい5号車に迫られるが吉本選手もペースを落さず2番手をキープ。45周目になるとタイヤがバーストしたマシンの影響でFCY(フルコースイエロー)が提示される。翌周にはレースが再開し、この際に5号車が後退する。代わって3番手には61号車のSUBARU BRZが浮上しLC500 GTに迫るが、最後は2秒差を付けて49周目に2位でチェッカーを受けた。



SUPER GT 2025
Rd.05 SUZUKA
GT 300km
FINAL

チームの母体となる大阪トヨペットグループからも多くの応援が駆け付け喜びを分かち合ったが、正式結果ではマシンの最低重量違反により失格の裁定を受けた。今大会の参加条件でLC500 GTは1290kgにサクセスウエイトの8kgを積んだ1298kgと定められている。決勝レース後の車検で、その最低重量に800g届かなかったため失格となった。

結果としてはポイントを獲れずに終わったが、苦慮していた問題も解決の方向がみえ大きな収穫があったことには違いない。

Team comment



Driver : 吉本 大樹

河野選手が担当した前半のスティントとポジションをキープできたことと、トップ集団から離されなかったことが好走に繋がりました。ピット作業はホントに完璧で、5号車や7号車をオーバーカットできました。ただ、7号車はペースが速く押さえこんでいたのですが、GT500との絡みもありパスされてしまいました。最後は2位でチェッカーを受けられたのですが、結果としては最低重量が800g足らずに失格となりました。どこで想定する車両重量とずれたのか分かりませんが、非常に残念です。ただ、大阪トヨペットグループの関係者や多くのゲストの前で、強いレースを見せられたと思っています。さまざまな要素が噛み合えば上位で争えるという証明はできたので、次戦以降もチームとともに優勝争いができるように努力していきます。



Driver : 河野 駿佑

スタートドライバーを務めたのですが、とにかくミスなく周回することを考えました。オープニングラップからポジションを守れ、本当なら順位を上げたバトンを繋ぎたかったのですが、役割は果たせたと思います。21周目にピットに入ると、メカニックの作業は完璧で7号車の前に出ることができました。吉本選手のスティントは苦しい場面もありましたが、要所を押さえて素晴らしいラップを重ねてもらえました。失格となり結果に繋がらず残念でしたが、レース内容には満足しています。応援してもらった皆さまには申し訳ありませんが上位で勝負できることは示せたので、気持ちを切り替えて次戦のスポーツランドSUGOでもトップを狙っていきます。